

●『“異”なるものと出遭う：揺らぎと境界の心理臨床学』

著者： 田中崇恵

発行：京都大学学術出版会 / 2015 年 3 月

価格：本体 3,240 円（税込）

判型：A5 上製判, 238 頁

ISBN：9784876983681



【内容紹介】

突然大きな病いに罹ったり、災害に見舞われたり——見えている世界が一変し、なんとも意味づけがたい体験が我々に訪れることがある。あるいはそれは、ふとしたひらめきやちょっとしたものの見方の転換など、もっと些細に見える出来事の中にもあるかもしれない。本書ではそういった体験を「“異”なるものとの出遭い」とし、そこで生じる体験とはいったい何か、それは我々に何をもたらすものなのかということをも《病い》《身体》《異界》《創造》《わたし》という 5 つの視点から迫っている。第 1 部では 3 例の心理臨床事例を、第 2 部では現代芸術家へのインタビューや非臨床群の調査研究を取り上げ、心理臨床にとどまらず我々が生きることににおける“異”なるものとの出遭いとその根幹にある臨床性との関わりについて論じている。“異”なるものと出遭うとき、これまで自明にあった「私」は崩れ去り、その境界面から新たな〈私〉が創出される。その動的な営みの中に〈私〉や世界の生成をみるという視点は現代というボーダレスな時代を生きる上で重要なものであり、そしてそれは自我という中心を有する近代的な意識や自己観への挑戦ともいえるだろう。

【出版社の書籍紹介ページ】

<http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?isbn=9784876983681>

【著者紹介】

田中 崇恵（たなか たかえ）

1984 年生まれ。2008 年京都大学教育学部卒業，2010 年京都大学大学院教育学研究科修士課程修了，2013 年同博士後期課程修了（博士（教育学））。臨床心理士。東京大学学生相談ネットワーク本部学生相談所助教を経て、現在筑波大学人間系心理学域助教。専門は臨床心理学。

主な論文に「パーソナリティにおける揺らぎの様相」（『心理臨床学研究』第 28 巻 3 号，pp. 324—335），「“異”なるものとの出会いとしての臨床性」（皆藤章・松下姫歌編『京大心理臨床シリーズ〈10〉 心理療法における「私」との出会い 心理療法・表現療法の本質を問い直す』創元社，2014）など。